

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育スクールj ump 宇部校		
○保護者評価実施期間	令和8年1月15日		～ 令和8年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動を中心とした療育支援を行っている。	個別/集団、ファウンデーション/コーディネーション、粗大/微細、年齢、理解度などに応じた運動種目を、毎週・毎月の単位で設定している。学校体育に対する苦手意識の軽減、運動内容を理解し自信をもって授業に参加できるように、学校体育で行う種目に取り組んでいる。常にその時の子どもたちの状況、様子を考慮してスタッフ間で話し合い、運動内容を立案、提供している。	より子ども一人ひとりに必要な運動が提供できるよう、運動に関する社内研修実施や外部研修の受講、資格取得など幅広く行い、スタッフの支援技術向上を図る。
2	集団生活の中で、子どもたちの時間の感覚や、自分で考えて行動する力を養うことができる。	活動の流れを全体のホワイトボードに可視化したり、タイムタイマーや声かけ等で活動時間の切り替えを促したりしている。グループで運動する時間に子どもたちどうして話し合う時間を設け、話し合いの進め方を学び、自分の意見を発信したり、他者の意見を聞いたりする機会を作っている。	決まった時間のなかで、やりたいこと、やらなければならないことの時間配分(〇〇を〇時〇分からする/〇分後から〇〇をする)を自分で考え実行できる力がつくよう支援していく。自由時間に集団で運動したり遊んだりする際に、自発的に子どもたちどうしてチーム分けやルール決め、時間の振り分けが話し合っているように促していく。
3	市の中心部が近く立地が良い。	徒歩圏内に駅やバス停、スーパーがあるため、買い物学習や公共交通機関の乗車体験などが行いやすい。	買い物学習は「〇〇で〇〇を買う」だけでなく、年齢に応じて「〇〇を買うためにはどこに行けばいいのか、どうやって行けばいいのか(交通手段)」を考えてもらい、実生活に活かせるよう支援する。電車やバスの乗車体験は路線図、時刻表、運賃の見方を指導する、わからないことを自分で尋ねたり調べたりして確認するなど活動内容を発展させ、前述と同様に実生活での自立につなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用希望があり枠が空いていても、現在送迎に行っている学校以外を新たにまわることが難しいため、新規での受け入れがでない。	開所して間もないころに市内の広範囲の学校を送迎可能としていたため、1日のうちにお迎えにあがる学校が点在し、下校時刻に合わせてまわることが困難になっている。	来年度は曜日ごとに送迎が可能な学校に通われている利用希望の方にご案内を行っている。 今後は、今までは基本1校ずつ下校時刻にお迎えにあがっていたが、可能な範囲で学校での待機をお願いし数校を経由することも検討していく。
2			
3			